

## 令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		評価の観点
			具体的な方策		
1 教育課程 学習指導	①普通科（クリエイティブスクール）においては、豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立等をめざした教育課程を適切に編成する。 ②福祉科においては、専門的な知識・技術の習得、豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立等をめざした教育課程を適切に編成する。 ③わかることが実感できる授業のユニバーサルデザイン化、ICTの積極的な利活用、実践的・体験的な学習などを推進する。	①②教育課程における編成および評価のあり方について研究を進め、3年間の教育課程全体が適切に配置しているか検証を進める。 ③現状の授業スタイルを様々な角度から検証し、さらに生徒がわかることが実感できる授業づくりを目指す。定期的に研究協議の場を設け、共通のスタイルの確立に向けて取り組む。	①②両科とも現状の教育課程の授業の進め方や評価基準の設定、評価方法が適正なものかどうか検討を進めていく。 ③授業見学や、みなみハート会議（研究協議）において、教員同士の情報共有や意見交換を積極的に行う。		①②それぞれの学科の特色に合わせた教育課程の編成、評価基準の策定及び選択科目の設置ができるか。 (生徒によるアンケート) ③実践例の共有や、新たな改善に向けた意見交換を目的とした授業見学やみなみハート会議を実施することができたか。 (実施回数) ④みなみスタイルが生徒の学習効果を与えることができたか。 (授業評価)
2 生徒指導 ・支援	①他者への理解を深め、安全・安心に学べる環境を整えるため、ルール、マナーを大切にする規範意識の醸成を図る。 ②生徒一人ひとりが抱える課題を早期に把握し、スクールカウンセラー（S C）やスクールソーシャルワーカー（S S W）および外部機関と連携した支援を図る。	①理解にもとづく規範意識の育成のため、より生徒との接触の機会を増やして、常に身近な立ち位置で、支援に力を置いた生活指導をめざす。 ②学校行事（南高祭・スポーツ大会等）を生徒主体の行事として充実させる。 ②支援が必要な生徒について、一人ひとりに十分な検討を行う。また限られた時間の中、一人でも多くのケースについて検討する。	①生徒との接触に重きを置いた機能に変えた各種当番の意識を職員に対して常に発信し、指導と支援の連携を図る。 問題行動の事前予防という観点に基づいた、巡回の意識について徹底を図る。 指導と支援の連携という役割を担った各種当番について、意識向上を図る。 ②生徒会執行部が中心となり企画し、教員がサポートしながら話し合いを重ねて実施に向けて進めてく。 ②検討の効率化のため、生徒の支援履歴や聞き取り結果を継続的に管理できる電子ファイルを構築する。カウンセリング等業務やコア会議がより効率よく行われるようにネットワーク環境を整える。		①より身近な位置で生徒との接触を図り、規範意識の向上に資することができたか。 職員に問題行動の未然予防という意識の向上が図れたか。 指導と支援の連携を高めることで、効果的な生徒指導ができたか。 (年間指導データ) ②生徒主体で企画、運営できたか。 (行事後アンケート) ②検討の効率化のため、生徒の支援履歴や聞き取り結果を継続的に管理できる電子ファイルを構築できたか。 ②カウンセリング等業務やコア会議がより効率よく行われるようにネットワーク環境を整備できたか。 (実施状況)
3 進路指導 ・支援	①生徒一人ひとりの進路希望に応じた適切な支援を充実させる。 ②SCCと連携しながら3年間を見据えた計画的な進路指導の充実を図る。	①生徒・保護者と進路希望を共有して適切な支援に繋げる。 ②SCCと連携し、キャリアプログラムの実践を通して生徒の社会的・職業的自立と主体的な進路選択を可能にする力を育む。	①キャリアパスポートの活用や各種面談を活用し、生徒・保護者の進路希望の把握に努め、適切な支援を行う。 ②3年間のキャリアプログラムの中に福祉科・普通科共通のプログラムを組み込む。		①生徒・保護者の希望に沿った進路実現を支援するとともに、進路実績の維持向上が図れたか。 (進路実績) ②福祉科、普通科共通の進路プログラムが完成したか。
4 地域等と の協働	①地域の企業や福祉施設と連携した教育活動を推進する。 ②地域貢献活動やイベント等への参加による開かれた学校作りを推進する。	①地域企業や福祉機関と連携し、生徒の社会参加と職業的自立に向けた意識向上を図る。 ②広報活動を積極的に行い、中学生やその保護者、本校生徒の保護者や地域の方々に学校の教育活動に対しての理解を深める。	①地域企業や福祉機関と連携した職業人講話を実施する。また本校独自のインターンシップ体制を構築する。 ②学校説明会やホームページの更新によって、学校の特色や教育活動を積極的に伝えていく。		①生徒の主体的な進路選択に繋がるようなインターンシップや職業人講話の実施と充実が図れたか。 (実施状況) ②学校説明会への参加者が満足いく内容だったか。 (アンケート実施) ②ホームページを定期的に更新することができたか。 (更新回数)
5 学校管理 学校運営	①生徒が安全・安心に学ぶための防災計画策定や施設設備等の点検・整備を進める。 ②全職員で不祥事を防止する。 ③職員が学校教育計画を共有するとともに学校運営協議会からの意見を反映していく。	①日常的に環境整備を進め安全・安心に学校生活を送れるよう努める。 ②職員一人ひとりが、不祥事防止に対する意識を常に持つよう努める。 ③学校教育目標の実現に向けて、学校運営協議会や各部会での意見交換を積極的に行っていく。	①計画的な防災教育や環境等の整備などを組織的に行う。 ②定期的にテーマを持った不祥事防止研修を実施して、標語を作成する。 ③各部会で行われた意見交換の内容を職員全体に周知する。 ③意見を踏まえ、様々な活動に反映させていく。		①計画的な防災教育や環境等の整備が実施できたか。 (整備実績) ②不祥事防止研修を定期的に実施して、各テーマについての標語を作成できたか。 (作成状況) ③学校運営協議会及び各部会で積極的な意見交換が行われ、その内容を学校目標の実現に生かすことができたか。 (次年度学校目標)